

## 議事概要録

<b>件名</b>	第1回 新得町観光振興ビジョン検討会議																																														
<b>日時</b>	平成29年5月29日(月) 15:00~17:00																																														
<b>場所</b>	新得町役場第3会議室																																														
<b>出席者</b>	・検討会議委員 (五十音順、敬称略) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">委員名</th> <th style="width: 20%;"></th> <th style="width: 20%;">出欠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新得ハイヤー有限会社</td> <td>石畑 政俊</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>みなとや</td> <td>今井 崇敬</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>新得町商工会</td> <td>岩宮 佳佑</td> <td>欠席</td> </tr> <tr> <td>一般公募</td> <td>加藤 博</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>宮城屋</td> <td>金沢 陽子</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>株式会社マルサ 齊藤商店</td> <td>齊藤 武</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>共働学舎新得農場</td> <td>高橋 英夫</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>TACとかちアドベンチャークラブ</td> <td>野村 竜介</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>新得町観光協会</td> <td>藤森 宗智</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>新得神社氏子会</td> <td>古川 盛</td> <td>出席</td> </tr> </tbody> </table> ・事務局 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <tbody> <tr> <td style="width: 60%;">産業課長</td> <td style="width: 20%;">石塚 将照</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td>産業課課長補佐</td> <td>佐々木 隼人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>産業課観光計画係長</td> <td>金澤 直樹</td> <td></td> </tr> <tr> <td>産業課観光計画係</td> <td>村瀬 祐樹</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		委員名		出欠	新得ハイヤー有限会社	石畑 政俊	出席	みなとや	今井 崇敬	出席	新得町商工会	岩宮 佳佑	欠席	一般公募	加藤 博	出席	宮城屋	金沢 陽子	出席	株式会社マルサ 齊藤商店	齊藤 武	出席	共働学舎新得農場	高橋 英夫	出席	TACとかちアドベンチャークラブ	野村 竜介	出席	新得町観光協会	藤森 宗智	出席	新得神社氏子会	古川 盛	出席	産業課長	石塚 将照		産業課課長補佐	佐々木 隼人		産業課観光計画係長	金澤 直樹		産業課観光計画係	村瀬 祐樹	
委員名		出欠																																													
新得ハイヤー有限会社	石畑 政俊	出席																																													
みなとや	今井 崇敬	出席																																													
新得町商工会	岩宮 佳佑	欠席																																													
一般公募	加藤 博	出席																																													
宮城屋	金沢 陽子	出席																																													
株式会社マルサ 齊藤商店	齊藤 武	出席																																													
共働学舎新得農場	高橋 英夫	出席																																													
TACとかちアドベンチャークラブ	野村 竜介	出席																																													
新得町観光協会	藤森 宗智	出席																																													
新得神社氏子会	古川 盛	出席																																													
産業課長	石塚 将照																																														
産業課課長補佐	佐々木 隼人																																														
産業課観光計画係長	金澤 直樹																																														
産業課観光計画係	村瀬 祐樹																																														
<b>資料</b>	資料1：検討会議 委員名簿 資料2：策定スケジュール(案) 資料3：新得町観光調査結果報告書 資料4：論点整理																																														

### 議事内容

#### 1 開会・挨拶

- ・進行：産業課佐々木補佐
- ・産業課石塚課長から挨拶

#### 【石塚課長】

- ・お忙しいところ参加いただき、誠に感謝。
- ・観光振興ビジョンについて、現在新得町において観光は基幹産業の一つであるにも関わらず、観光を主眼に置いた計画がなく、中長期的な視点でのビジョンが存在しない状況。
- ・ビジョンを策定し、実行することで観光振興のための体制づくりと仕組みを構築し、観光入込客数の増加、地域経済の活性化を図り、観光による地域づくりを図ろうとするもの。
- ・会議は5回の開催を予定し、来年の2月にはとりまとめたので、委員の皆様には御協力をお願いしたい。

## 2 委嘱状交付

- ・石塚課長から各委員へ委嘱状を交付

## 3 委員紹介（資料1）

- ・各委員から挨拶

## 4 正副委員長選出

- ・立候補・推薦者の募集 → 立候補・推薦者なし
- ・事務局から指名してほしいとの声あり
- ・事務局から、委員長に石畑委員、副委員長に野村委員を指名  
→ 異議なしにより決定

## 5 議事

- ・進行を石畑委員長に交代

### （1）策定スケジュール及び検討会議の進め方について（資料2）

- ・事務局から説明

#### 【事務局 新得町産業課観光計画係 金澤係長】

- ・観光振興のための体制と仕組みを構築し、計画的に観光振興を図るための「観光振興ビジョン」を策定することが本会議の目的。
- ・ビジョンは観光分野における総合計画の個別計画としての位置付け。また、総合戦略と整合を図る必要があり、戦略内容を実現する具体的な事業等をビジョンには記載する必要がある。
- ・策定スケジュールについて、基本的に、2ヶ月に1回のペースで会議を開催し、本年度中に5回の開催を予定。7月の第2回に骨子案の検討・決定、9月の第3回に素案の検討、11月の第4回に素案の決定を行い、その素案をもって、12月から約1ヶ月の期間でパブリックコメントを行う。パブリックコメントの結果を反映し、来年2月の第5回の会議で最終的な形で決定する。
- ・会議の進め方について、会議は委員の過半数が出席しなければ開催できないが、代理出席も可能としている。議事は出席者の過半数で決する。会議は公開することとしており、会議後、おもな議論をまとめた概要を町のHPで公開する。概要には発言者の名前も記載して良いか。  
(異議なし。公開することと決定)
- ・オブザーバーを置くことができることとしている。これは道などの機関から議決権を有せずに参加もらうことを想定。会議の中で設置することが必要だとされれば、手続きを進める。
- ・直接観光担当の所管外のことがらについては、関係課、関係団体等に協議・要望を行うことになるので、「こうする」と断定的な記載ができないこともあることを予めご承知いただきたい。

### 《委員発言》

#### 【今井委員】

- ・オブザーバーというのはどういう範囲で考えているのか。プロフェッショナルの方も考えられるのか。

→例えば道の観光施策を説明してもらうために道の担当者に出席してもらうなど。予算の都合上、費用がかからない範囲内でお願いすることになる。

#### 【齊藤委員】

- ・ 5回の会議でどのくらいまで進めるイメージなのか。
- 説明したスケジュールで進めることができれば、意見を踏まえてある程度事務方で素案等を作成するので、それに対して会議の場でも、各会議の間が約2ヶ月あるのでその期間でも、随時意見をいただければ反映されることも可能。会議の中でまとまりきらなかった案件は個別に意見をいただければ、作成案に反映させ、次の会議に諮ることも可能。

#### 【今井委員】

- ・ パブリックコメントはどういった形式をとるのか。公聴会的なものか。
- 町の広報に「観光振興ビジョンをつくったので意見がある方はお願いします」という形で載せ、本文は町のHP上で見てもらうか、産業課まで取りに来ていただく。様式を用意して紙で提出していただく。
- ・ 作成したビジョンは最終的に議会で議題として取り上げてもらうのか。
- 「検討委員会でビジョンを作成しました」ということで報告する形。予算を伴うような事業をビジョンに載せるとなった場合は、財政サイドとのやりとりもあるが、予算要求等実現するために動いていく。

#### 【野村副委員長】

- ・ ビジョンはどのくらい先を見て考えれば良いのか。
- ビジョンの計画期間について、この会議で5年がいいのか10年がいいのか総合計画に合わせるのかということも検討していただきたい。ただし、新得町には中長期的な計画がないということでビジョンを作成しようとしているので、基本は10年で、5年目を中間年としてそこで見直しをかけるという形が適切かと考えている。
- ・ これに関しては短期で、これに関しては長期でというふうに分けて検討していけばいいのでは。
- ビジョンには短期と中長期で分けて記載することも可能

### (2) 観光調査結果の報告（資料3）

- ・ 事務局から説明

#### 【事務局 金澤】

- ・ この調査は、観光客の動態・満足度調査を実施することで、観光客の周遊状況やニーズを把握すること、観光産業が地域にもたらす経済波及効果を推計し、新得町における観光産業の実態を把握することを目的に実施したもので、今回策定する観光振興ビジョンの基礎資料となる。
- ・ 観光入込の状況について、町の観光入込客数は平成26年度以降増加基調で、これは主に道内客の増加による。
- ・ 月別で見ると、1月がピークとなっており、冬季型の観光となっていることから、夏季の観光客の増加対策が必要。
- ・ 観光客に占める宿泊客数の割合を北海道全体と比較すると、平均より低くなっているため、宿

泊を伴う滞在型観光に力を入れる必要があると考えられる。

- ・海外客の割合は北海道平均を大きく上回っていることから、海外客の受け入れ体制の整備など、さらなる増加対策が必要。
- ・観光入込の形態について、夏はほぼ国内客だが、冬は海外客の割合が大きくなっている。
- ・国内の地域別では、特に冬は道内客が多く、道内以外では関東が圧倒的に多い状況。関東向けのプロモーション活動が重要と考えられる。
- ・道内の地域別では、石狩、十勝、上川が特に多くなっている。
- ・海外客の地域別では、中国、台湾、香港、オーストラリアが特に多く、簡体字、繁体字、英語でのパンフレット等の案内に配慮する必要がある。
- ・年代別観光客では、40代が最も多く、冬季はスキー客が増えるので、若い年代の比率が高くなっている。
- ・旅行人数に関しては、「2人」が最も多くなっている。
- ・新得町への訪問回数では、道内客は特に冬季で複数回訪問しているリピーターが多く、海外客は夏季・冬季ともに初回訪問者が多く、リピーターが少ない状況にあり、ターゲットに応じて初回訪問者対策と再訪問者対策を使い分けることが必要。
- ・旅行の主たる目的では、夏季は「食・グルメ」と「自然観賞」が多くなっており、冬季は「スポーツ」が突出しており、スキー・スノーボードを目的とする方が多くなっている。
- ・新得町を訪問する際にどこから情報を得たかについて、インターネットが最も多くなっており、観光協会ホームページの充実を図ることが必要。
- ・新得町を訪れたきっかけについては、「行きたい観光地があった」とする回答が最も多く、魅力を高める対策と、魅力をアピールするプロモーション活動が必要。
- ・期待度と満足度の比較から見た観光振興において取り組むべき課題について、【重点維持分野】は、期待度、満足度ともに相対的に高く、重点的に評価の維持に努めることが重要となっている分野で、夏季では、「静けさ、のどかさ」「景色や風情」「施設や設備」などがこれに該当する。冬季では「接客対応、もてなし」などが該当する。【維持分野】は、期待度は低い満足度は高く、満足度を維持していくことは重要だが、期待度が低い分、観光客が望んでいないことに力を入れてもしょうがないので、重要性は相対的に低いことになる。夏季でいうと「アクセスのしやすさ」、冬季は「祭り、イベント」「入場料や参加費用」がこれに該当する。【改善分野】は、期待度、満足度ともに低く、期待度が低いので緊急性は低い、満足度を高める工夫が必要となる。夏季は「営業・開館時間」など、冬季は「名産品、土産物」「案内人・ガイド」「活気、にぎわい」などが該当する。【重点改善分野】は、期待度は高いのに満足度は低く、期待に応えるべく、重点的に満足度の評価を高める必要があり、これは夏季の「観光情報・案内」が該当し、改善が必要。
- ・観光客の再訪意向は、夏季・冬季ともに来たい方が多く、評価を得ていると言える。一度来た方にはもう一度来たいと思ってもらえているので、初めて来る方を増やすことが重要。
- ・観光消費の経済効果について、推計した観光総消費額は約67億円となっている。消費項目別では、宿泊費が約43億円で最も大きい。
- ・総観光消費額約67億円によって、生産波及効果が約100億円、付加価値波及効果が約44億円もたらされた。経済効果を高める対策としては、一つは観光客の支出を増やすこと、もう一つは新得町の事業者がなるべく町内から原材料等を調達することになるが、後者の方はやは

り限界もあると思われるので、前者の観光客の支出を増やすため、観光客の支出先を増やすことが重要。

## 《委員発言》

### 【今井委員】

- ・この調査はどのように行ったのか。
- 昨年度札幌の事業者に委託し、夏と冬の2回新得町に来た方を対象にアンケート票に基づき対面ヒアリングで調査した。また、宿泊事業者にアンケート票の配置をお願いし、留め置きのもでも回収した。

### 【加藤委員】

- ・何人ぐらいから回答を得たのか。
- 資料の中で各項目の横に（N=〇〇）と数字が書いてあると思うが、これが回答者数になる。項目別に数字が異なるのは、その項目について、経験しなかったとか、特に思うことがないといった理由で回答しなかった方がいるから。

### 【今井委員】

- ・この調査結果は、要はクラブメッドとかサホロリゾートの話で、そこを省かないと（市街地の）実態はわからない。
- そこ（サホロ）も含めて町の観光として考えていかないといけない。

### 【加藤委員】

- ・サホロ方面から市街地へ実際はどれくらい観光客が流れてきているのかという調査はないのか。
- そういった資料はないが、例えば冬季はサホロ方面から市街地へ無料循環バスを走らせているので、その乗車人数の資料は用意できる。

### 【高橋委員】

- ・「アクセスのしやすさ」の満足度が高いという結果だが、うち（共働学舎）に来るお客さんから聞く話では、そういう声は聞かない。また来たいけどなかなか来られるところではないという声があるので、この結果には疑問がある。
- 期待度が低い分、満足度が相対的に高く出ている部分はある。

### 【加藤委員】

- ・JRを利用する客と新千歳空港からバスで直接サホロに行く客といると思うが、まだJRの利用客の方が多い状況なのか。
- クラブメッドは新千歳空港から直通バスを出しているのもので、その利用者が多いが、それ以外ではまだJR利用者も多いと思う。

### 【石畑委員長】

- ・夏の利用の仕方と冬の利用の仕方が違う。夏はレンタカーで来る人が多い。以前に比べるとJR利用者は減っているように感じる。帯広空港に関しては、関西からの客には使い勝手が悪い

と聞いている。冬はレンタカーは大変なので、新千歳空港からバスで直接入る客が多いと思うが、JRで来て駅からタクシーを使う人もいる。いつ調査したか、どこで調査したかで結果が違うので、感覚的に調査結果に違和感を持つ方もいると思う。

---

(各委員が検討会議に参加した理由)

**【金沢委員】**

- ・何のためにこの会議に出席しているのかということだが、昔から思っている新得町がこうあればいいな、という私のイメージがどんどん崩れてきている。それは商店街の活気のなさ。もう少し明るく印象に残るように、サホロ地域だけでなく玄関口となる駅前も新得町の顔としてにぎわいを増やせないか。調査結果のこのデータは、うち（宮城屋旅館）に来た泊まり客の声からしてもかなり正確だと感じた。活気・にぎわいが一番のポイントではないかと感じている。具体的な案を持っているので、それを発表する場としてここに出席させていただいた。まだ資料をつくってはいないが、ビジュアル化してプレゼンテーションしたいと考えているので、スクリーン等用意していただければ。

**【加藤委員】**

- ・私がこの会議に参加したのは、狩勝高原園地再整備について、何とか町民に理解いただいて、町の観光を盛り上げていく方法はないか、協力していきたいと考えたため。

**【今井委員】**

- ・インバウンド対策、国内のお客さんに頼っているだけでは駄目だと思っており、まだまだ情報発信力が欠けている。HPでもリアルタイムに「その日お得なこと」のような情報発信がもし観光でできるなら、その窓口を国際的にやってほしい。現在、指さし確認のカードを作って小さいところからやっており、町民大学でも英語、ドイツ語、フランス語と広がっており、すばらしい先生方もいる。ニセコ町で繁盛している鮭屋があるが、その理由は女将さんに留学経験があり、ネイティブに近い英語が話せるから。外国の方が来て安心してぶらぶらできるような街にならないかなと、そういうきっかけがほしいと考えている。

**【石畑委員長】**

- ・仕事柄観光客と会う機会が多いので、何か話せることはないかと思って参加している。最近海外の方が多いが、一番困るのは外国語表記のサインが少ないということ。その対策は早急にできるのではと思っている。片言でも英語で話すところだけでいいし、英語のメールでの連絡も多くなっている。対応するとまた来年も来るかな、という話にもなり、また、英語で対応してもらえるという話がトリップアドバイザーなどに載ると、しばらく残るので自然に広まる。商店街でも個々のお店にどういうものを扱っているかというサインがあると海外の方は安心する。

**【野村副委員長】**

- ・私の仕事は基本的にお客さんはすべて観光客の方になるので、修学旅行を除くと年間約3千人

の方が来てくれている。新得町のどこに何があるのかということが伝え切れていない。「何か美味しいものはあるの」「あそこの畑に植えられているのはどこに買いに行けばいいの」とか聞かれたときに困る。そういった情報をまとめてわかりやすく発信することができたら素敵だと思う。外貨獲得、外貨というのは十勝管外からという意味だが、日本全国から来てもらって、お金を出してもらうに当たり、できるだけたくさん魅力的なものがあればいいなど。この先10年後20年後そういう（魅力的なものがたくさんある）街になればいいなと思い、そういったことをビジョンで盛り込めたらと考えて参加した。外国からのお客さんで自分でレンタカーを運転してくる方がこの3年くらいで増えてきている。まだ伸び代はあるので、そこをターゲットにしてきちんと情報を出していけばもっと来てもらえるようになる。そういった仕組みが必要で、ビジョンがあればそこに近づくのかなと思っている。

#### 【齊藤委員】

- ・私が生まれた頃は新得町の人口は1万人弱いたと思うが、どんどん減ってきて今はもう6千2百人を切ったと思う。ということは、商売を行う事業主がどんどん減っていく時代に入ったということ。減っていく中で、ある程度サホロリゾートに依存している事業者が多いが、まずはサホロリゾートがなくなる方向に持って行くということ。商店街が今後良くなるためには、自力で力を付けて商店街を活性化していく店づくりをしていくのは事業主の宿命と思っている。それをどうやるのか、それを聞きたいし、話したいと思って参加した。

#### 【高橋委員】

- ・新得町は「そばのまち」とみんな言うが、うち（共働学舎）のチーズは世界一になっているのになんで新得の人はもっと「新得のチーズ」って言わないのかな、もっと新得の名物って言うてくれてもいいのにな、と思っていたが、ある人に「チーズは新得のものじゃなくて、共働学舎のもの」だということを言われた。「そうか」と思い、だったらもう少し新得町の人に浸透できる形になったらいいなと思っている。手前味噌の話になるが、共働学舎は町の中ではかなりメジャーなものだと思う。共働学舎を目指してきたというお客さんがほとんど。一番困るのは「他にどこか遊びに行くところはありますか、食べるところはありますか、お土産を買えるところはありますか」と聞かれることで、口を濁すことになる。そば屋を勧めても、「そばはこの間食べたので他のもので」となる。こういうのはもったいない。わざわざ新得まで来たからもっと楽しみたいとか、そういう声を多く聞く。町の人の方がもっと共働学舎の名前を使ってもらって何かできたらいいなと思っている。

#### 【藤森委員】

- ・新得に来て2年になるが、新得はまだまだ通過型の観光ルートだなという印象がある。サホロのお客さんが冬の無料循環バスを使って町内の居酒屋に来ていたが、サホロのお客をいかに商店街に足を運ばせるかという取組が必要だと思う。夏場はオリックスと提携し、観光協会がレンタカー事業をしているが、6月の中旬からかなり予約は好調で、その観光客はサホロに長期で泊まって、その間に富良野とかトマムに行くという形で、うまく遊び方を考えている。近場にせっかくな観光地があるのでうまく連携して、観光ルートみたいなものをつくれればもっと観光がいい方向にいくと思う。

## 【古川委員】

- ・日頃から新得の観光を気にしていたが、(委員の) みなさんの話を聞くと希望が持てる。仕事をしながら、十勝の19市町村の中で新得が一番恵まれたまちだと聞かされる。住んでいるとあまり感じないが、交通のアクセスがいいということと、サホロリゾートがあるということ、それだけでも他のまちからするとすごくいいと。観光は滞在型と通過型に分かれるが、新得は通過型。新得には神社山という、昔は観光の目玉だったのではないかといい素晴らしい山がある。今は観光から遠ざかっている。春の桜や88箇所の名所、神社山の健康コースなどは、町民ばかりではなく他からも来る観光の一つの目玉になるのではないかといい。みなさんの力を借りて進めて行ければ。
- 

## (3) 論点整理 (資料4)

### ①論点1：ビジョンの構成の方向性

- ・事務局から説明

#### 【事務局 金澤】

- ・事務局で論点を大きくは3つ提示するが、委員の皆様からも議論すべき事項があればご提案いただきたい。
- ・どういった構成にするか、方針・方向性を定めた基本計画のみとするのか、具体的な実施計画も詳細に定めるのかという論点がある。
- ・仮に、将来的に観光協会の独立を視野に入れるとすると、町で詳細に計画を定めてしまうと観光協会はそれに従うだけで独自に動くことが難しくなってしまうという懸念がある。
- ・一方で、観光協会が自立してすべてやっていくにはまだ時間がかかるため、ある程度町の意味として実施すべきことは決めておいた方がいいとも考えられる。
- ・また、こういった計画によくあるような、日本の観光の現状やトレンド、直接関係しない分野の記述等も網羅的に含んだ立派な見栄えのするような計画にするのか、一目ですぐわかるような、何をやるかだけ記述したようなものにするのか、ということも考える必要がある。
- ・いくつかの自治体の観光計画の構成を比較し、参考に作成したのが別紙の骨子案。第2回の会議で骨子を決定する予定としているが、この別紙をベースとしたい。
- ・観光協会と行政の役割を踏まえ、ビジョンには、町が実施すべき事項は実施計画も含め具体的・定量的に記述し、観光協会の分担と考えられる事項は、特に実施が必要な事項は具体的に記述し、それ以外は「滞在型観光を進める」などと記述し、そのために何をやるかは観光協会に任せるといい方向性として行きたいと考えているが、よろしいか。

## 《委員発言》

### 【野村副委員長】

- ・どこまでが観光協会の役割で、どこまでが町の役割かと決めるのは難しい。これはどっちだ、と考えているうちに本質からずれていってしまう危険性がある。
- おっしゃるとおりではあるが、誰が行うかを決めないと責任体制にならない。実現性のためにも、具体的な事業があったらこれを誰がやるのか決めた方がいい。



**【野村副委員長】**

- ・ビジョンは実現可能なものを前提としてやるのか、それとも夢を語るのか。  
→それも含めてこの会議でどういう方向にするのか決めていただきたい。

**【齊藤委員】**

- ・ここに来ている人は普段全然コミュニケーションがない。同じように観光業に従事していても普段意見交換を全くしてなくて、今日が初めて。事業者で連携しただけでも色々な情報交換ができて、連絡を密にすれば人を新得に引っ張ってこられるようなことができる。

**【今井委員】**

- ・観光協会がそれをやっているが、理事が集まってやっても、今までやってきたことをこなしているだけ。

**【齊藤委員】**

- ・新得に観光客が来ても、そばは例外としても、紹介したいものがないというのが現実。どこに何があるという情報発信ができれば、(各事業者で)それなりの準備もするし、まずはそこから。駅に来た観光客はそのままリゾートに向かう。時間で動いているので、町なかで回遊している時間はない。観光客がせっかく駅に来ているのなら、5分でも10分でも町なかを歩かせる努力をしていかないと。売るものを用意できないというのが情けない現状。

**【金沢委員】**

- ・売るものもそうだが、歩いてまちを眺めたいというようなシチュエーションではない。眺めていきたいという雰囲気が必要。

**【齊藤委員】**

- ・観光客のニーズに合った食材やお土産などそういったものを用意できる店づくりがまだ追いついていない。

**【金沢委員】**

- ・共働学舎のいいところは、軽井沢のようにおしゃれ。ヨークシャーファームもそうだが、違う世界でくつろげ、ちょっと高くてもお金を出してしまう魅力がある。新得の町並みにそれがあるか。桜の名所があり、桜でとった金賞のチーズがある。それをどうして結びつけないのか。川も非常にきれい。人が人を呼ぶというのが一番長期にわたって効果がある。

**【齊藤委員】**

- ・シャッター商店街になっているという現状は致し方ないが、それを少しでも打開したくてこういう会議にみなさん来ている。

**【加藤委員】**

- ・駅のステラステーション（2016年12月にオープンした駅の売店）で町内業者が作っている新得のそばがすべて集まっている。今まではそれぞれの会社でその会社の商品のみで、客は選べなかった。ステラのように全部置いてあるというスタイルは初めて。変化を感じた。ステラで新得の産物を提供し、まずは駅前からスタートして広げていくことを検討したい。

**【齊藤委員】**

- ・そばか共働学舎かという話しか出ない。発信されていない、宣伝されていないというのが現状。

### 【石畑委員長】

- ・話を総合すると、観光客に喜んでもらうためには、町並みなり、受入対策の充実を図らなければいけないということ。お客さんの中には共働学舎をピンポイントで目指す人もいれば、2時間くらい町中で過ごしたいという人もいる。特産品を買いたいという人もいれば、日用品を買いたいという人もいる。観光客だからといって特産品だけを目的としているわけではない。観光客のニーズをうまく把握することが重要。日用品も含め、どこで何を扱っているかという情報発信も重要。そういった対策を含めたものが実施計画になると思う。行政と観光協会の役割では、行政の体制としてなかなかできないこともあると思うので、観光協会を含め、民間がいかに動いていくか、そこに行政が応援していくという形が一番現実味がある。

### 【高橋委員】

- ・駅前の活性化については、商工会が主体となって議論をしている。同じ町内なのに、向こうは向こうで、こちらはこちらで話すとおかしなことにならないか。すりあわせをして決めていかないと。
- 商工会からも情報を提供していただけるようにする。

### 【今井委員】

- ・振興ビジョンに「(仮称)」とついているがこれでいいのか。
- 名称は「～計画」とするのか「～ビジョン」とするのか、もっと独自性を出すのか、計画を最終的に決定するまでに名称を決めていきたい。

### 【今井委員】

- ・あまり格好がいい名称をつけても、我々は行政に対して上からあれやれこれやれと言える立場でもない。夢を語るならいっぱい語るし、具体的な話がいっぱい出てきてそのうちまとまると思うが、こういう話し合いを続けることは本当に大事だと思う。事務局の方として、どういう方向に持って行って欲しいのか。将来を見据えてこんなまちにしましょうとか、今日のように色々な思いをはき出して欲しいのか。
- 論点2がまさにそういった話になる。

## ②論点2：ビジョンの目標

- ・事務局から説明

### 【事務局 金澤】

- ・「ビジョンの策定により実現するメインの目標は何か」ということで、ビジョンは観光に関する総合計画だとは言っても、限られた資源で何もかもを達成することはできないので、象徴的な言葉かあるいは具体的に書くとすれば最も達成したいことをメインの目標として掲げる必要があるかと思う。これを達成するためにビジョンを作ったというような、ビジョンを策定する意味に関わってくるところとなる。
- ・参考にいくつか例を記載している。北海道の場合、「自然環境など地域の資源を生かした滞在型の観光地づくり」「国内外への効果的な誘客活動による旅行市場の拡大」「観光振興による地域と経済の活性化」と大きくは3つ掲げており、上富良野町の場合は基本コンセプトとして、「あなたと創りたい かみふらの物語」～五感で感じる上質の癒やし空間へようこそ～と、象徴的

な言葉で抽象的に記載している。

- ・参考になるのは、総合計画では、観光客数、宿泊客数、道外観光客数を成果指標としており、日本版DMOでは、旅行消費額、延べ宿泊者数、来訪者満足度、リピーター率の4項目を必須の成果指標として求めている。これらを満たすような目標が必要だと考えている。
- ・こういった目標を掲げるのがいいか、何かご意見はあるか。

## 《委員発言》

### 【今井委員】

- ・イメージを作ってしまったらフリートークで話しにくくなる。
- フリートークで意見を言うのであれば、それを踏まえて事務局で案を作成し、それを基に皆さんに意見をいただくという形で進める。大まかな方向性だけ考えていただければ。

### 【金沢委員】

- ・これまで皆さんが話していたことは、「地域の魅力向上」ということに全てつながると思う。

### 【加藤委員】

- ・新得の一番の魅力、観光客に何をj見せてあげたいか、新得の素晴らしいところをアピールする。

### 【金沢委員】

- ・私は自然だと思う。自然は元からあり、それをわかっていてお客さんが来るので、それに対して散策路を整備するなどもっと楽しみやすくしていければ。

### 【石畑委員長】

- ・自分の感じでは、観光客はお金をかけないで安く観光したいという人もいるが、意外にいいものにはお金をかけて、おj金に糸目を付けない人も多い。こちらが興味を持たないだろうと思うことでも興味を持ってもらえたりもする。ベースは自然。夏場は芋掘りなどの体験が意外な人気。北海道の真ん中にあるのに蟹を買いたいという人もいる。我々が地元で考えることと、他から来る人の考え方は違うので、よく話を聞いた方がいい。

### 【今井委員】

- ・目的ごとに色分けして、観光客のニーズに合わせて紹介できるように。我々は得意な分野を發揮すればいい。

### 【高橋委員】

- ・自然が魅力だが、駅前において自然が感じられない。駅で降りた人がもっと自然を感じられたらいいのではないかと思う。

### 【今井委員】

- ・自然を感じられるところを案内できればいい。観光客に聞かれたときに町のひとみんなが答えられるようになれば。皆が案内人になれば一番いい。

### 【金沢委員】

- ・うち（宮城屋旅館）もオーストラリアからのスキー客が1週間くらいの長期で来て、その後また友達を連れて来たり、今はインバウンド対策で楽天トラベルに登載しており、7月に韓国の団体のお客さんの予約が入っている。対策をすると効果は確実にある。

### 【加藤委員】

- ・ビジョンの中でも観光コースを設定できれば。

#### 【石畑委員長】

- ・コースにすると意外と難しい部分もある。コースを決めるとそこにピッタリ都合が合わないと参加してもらえない。選択肢をたくさん提示して、お客さんがそこからチョイスする方法もある。営業時間とか、ここでこういう体験ができるとか、施設間の距離とか、細かく発信してあげるといい。

#### 【野村副委員長】

- ・僕はラフティングがメインの商品で、プラスで新得町の他の観光も組み合わせたプランは作っている。が、発信が弱くて伝わらない。情報を見えるように出してあげるのが効果は出ると感じている。情報をどこに出すのかとか、どういように見えるようにするのかとか、考えて出すことを目指していった方がいい。

#### 【金沢委員】

- ・町のHPを見てお客さんは来るか。

#### 【野村副委員長】

- ・うちはほとんど来ない。

#### 【今井委員】

- ・食ベログのカウントを見ると多いときで月に千件くらいアクセスがある。そういうところに観光協会のHPがリンクして、日替わりで「今日はどこのランチが安い」とかリアルタイムで観光ネットワーク情報みたいなものが更新されるようなものがあれば。そこに我々も情報をどんどん持ち込む。

#### 【高橋委員】

- ・去年あったのは、外国人の方が何もわからずに来る。何だろうと思ったら、インスタグラムを見て来たらしい。これは効果的で、口コミは重要だと感じた。

### (4) 次回開催

#### 【石畑委員長】

- ・次回の会議については。  
→今回の議論を整理したものをつくるので、また次回意見をいただければ。
- ・骨子案に沿った形でまとめていただければ。  
→議事概要を予め送付させていただくので、それを踏まえて骨子にこれを付け加えたらいいなど、意見をいただければ。論点3が今回議論できなかったので、次回ということをお願いしたい。
- ・次回開催は7月ということになっているが、時期的な希望はあるか。

#### 【今井委員】

- ・夏休み前の7月中旬くらいまでの方がいい。  
→6月の早い内に日程調整させていただく。

#### 【齊藤委員】

- ・メールで調整していただいた方がいい。  
→そのようにする。